

管理栄養士からのカ水

【今月のレシピ】海鮮チヂミ

11月、少し肌寒くなる季節。混ぜて焼くだけ簡単調理!!ホットプレートを家族や仲間と囲んでみませんか?焼きあがるまでの時間、ホッと温まる会話を楽しんでみてください。白玉粉を加えたオリジナルレシピで、もちり、カリカリ食感のチヂミは、腹持ちもよく、いろいろな具材を加えることで、栄養バランスもばっちり!!



材料 [2人前]		[1人前] エネルギー:283kcal タンパク質:15.2g	
小麦粉	40g	鶏卵	1個
白玉粉	40g	シーフードミックス	100g
だし汁	大さじ5	にら	1束
ごま油	少々	人参千切り	8g
		シュレッドチーズ	10g

作り方

1. だし汁と白玉粉を混ぜ合わせ、粒々感がなくなったら、その他の具材を全て合わせる。
2. フライパンに、分量外のごま油をひき、1を薄くのばす。
3. 中火で、8分程度ふたをして加熱し、裏返して、さらに6分程度加熱。
4. 焦げ目の様子を見ながら、時間を調整。
5. つけだれの調味料をすべて合わせ、よく混ぜて小鉢へ。
6. 4を適当なサイズに切り分けてお皿に盛り付け、完成。



病院からのお知らせ

【医療機関向け】予約システム「カルナコネクト」のご案内

当院と地域の診療所様との「病・診連携」をより充実させるために、インターネットを利用したオンラインでの診療・検査予約システム「カルナコネクト」を導入しています。本サービスをご利用いただきますと、診療所様は土日を含めた24時間365日、いつでも診療・検査のご予約が可能となります。(当院では検査予約のみ対応いたします)



1. 検査予約申し込みには「インターネット」を利用します。
2. 24時間365日いつでも簡単に「予約」ができます。
3. 診療所様は「無料」でご利用頂けます。
4. 案内状や情報提供書をプリントアウトできます。

診療予約 TEL.052-680-8999

診療時間 月曜日～金曜日 9時～12時・13時～16時
11時30分受付終了 15時30分受付終了

予約受付時間 月曜日～金曜日 9時00分～19時30分
土曜日 9時00分～12時30分

病院ホームページ



病院公式LINE



@872cgvra

病院Instagram



@ncurehab

アクセス



- ・地下鉄名城線「総合リハビリセンター」下車1番出口
- ・金山から市バス「金山14瑞穂運動場東」行きで、「総合リハビリセンター」下車
- ・新瑞橋から市バス「瑞穂区(右回りまたは左回り)」行きで、「総合リハビリセンター」下車



発行元 名古屋市立大学 医学部附属 リハビリテーション病院 経営課

名古屋市瑞穂区弥富町字密柑山1番地の2
TEL 052-680-8123 [代表]

名古屋市立大学医学部附属リハビリテーション病院

みんなと繋がる広報誌

りれい

Rehabilitation

Relationship

初号

2025年11月
発行



開院して半年…

リハビリテーション病院の今をお届けします!



Contents

- P.1 メッセージ
・病院長より
・看護部長より
- P.2 院内紹介ボタンリレー
「リハビリテーション技術科」
地域・社会とのタスキリレー
私、あの山越えてきました!
- P.3 管理栄養士からのカ水
【今月のレシピ】海鮮チヂミ
病院からのお知らせ
【医療機関向け】
予約システム「カルナコネクト」

Message

チームワークを高め、患者さんと
地域の皆さまの健康を守る存在に

リハビリテーション病院 病院長
山下 純世 *Sumiko Yamashita*



暑かった夏がようやく過ぎて、ここ密柑山の地にも、実りの秋が到来しました。当院は2025年4月、名古屋市立大学医学部附属リハビリテーション病院として新たなスタートを切りました。これまで、地域の皆さまに支えられながら、職員一丸となって歩んできました。時には厳しく、時には温かく励ましのお言葉をいただきましたことに深く感謝いたします。まだまだ至らぬ点が多いかと思えます。皆さまのお声に真摯に耳を傾け、安心安全で丁寧な医療を提供できるよう、より一層努力してまいります。

このたび、当院のことをもっと知っていただくために、広報誌「りれい」を発刊しました。「りれい」はリハ

ビリテーションrehabilitationや人と人との絆relationshipから連想した造語です。「リレー」と読めば、バトンを受け渡す競技を思い浮かべる方も多いことでしょう。私たちは、チームワークを高め、患者さんやそのご家族だけでなく地域の住民の方々とも心を通わせ、皆さまの健康を守る存在であり続けたいと考えています。日々の診療に関する情報や健康にまつわるトリビア、さらには職員の人となりや垣間見ることができる、そんな広報誌をめざしています。ぜひ私たちの熱い思いを受け止めていただき、ご感想・ご意見をお聞かせください。どうぞよろしくお願いいたします。



看護チーム一丸となり、
患者さんの「できる」をサポートします

リハビリテーション病院 看護部長
瀨瀬 万知代 *Machiko Kohetsu*

開院から7か月、地域の皆さまに支えられながら少しずつ当院らしさを築いています。看護部では回復期リハビリテーション病棟として、患者さんの「できる」を増やすため、セラピストと協力しながら日々のケアに取り組んでいます。忙しい日々の中で、患者さん一人ひとりにじっくり耳を傾けることが難しい場面もありますが、患者さんと看護師が同じ目標に向かって歩めるような関係づくりを目指し、患者さんにとって看護師

にとっても居心地のいい病院づくりに取り組んでいます。また、看護補助者は資格はありませんが看護チームの一員として患者さんに関わり、食事や排泄、移動などの場面で温かく寄り添うケアを担っています。看護の専門性と補助者の支えが合わさり、より安心できる療養環境の提供につながっています。これからも患者さんを支えるために成長を重ね、地域の皆さまに寄り添い、貢献できる病院となるよう努力していきます。

リハビリテーション技術科

院内紹介バトンリレー



日本全国から集まったリハビリテーション技術科のスタッフ

リハビリテーション技術科には、北は北海道、南は九州まで、全国から集まった多才なスタッフがそろっています。新人からベテランまで幅広く、とても元気いっぱい!

職場を離れると、パラスポーツの審判で笛を吹いたり、研究に没頭して夜更かししたり、卓球に汗を流したり、釣りでお気に入りのルアーを集めたり、ゴルフクラブをあれこれ選んで楽しんだり、子どもの野球チームで「今のはセーフ!」と保護者と盛り上がりたり…。

多彩な一面を持つスタッフですが、患者さんと向き合う時は一瞬で真剣モードに。時には笑い声が交じるリハビリで、「ここに来ると元気が出る」と感じていただける場を目指し、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士がチームとなって一人ひとりの回復を全力でサポートしています。

次回は看護部!



地域・社会とのタスキリレー



9月6日、陽明学区の地域防災訓練にて、当院の院長が「災害時に起こりやすい循環器の病気をテーマに講話しました。災害時のストレスや生活環境の変化だけでなく、地域コミュニティの欠落が循環器病のリスクになることが説明されました。参加者には、エコノミークラス症候群の予防運動イラストを貼ったふわふわ防災パンをお配りしました。「災害時に役立つものを!」という思いで製作したものです。少しでもお役に立てれば幸いです。

当日、6月に開催した院内見学会の感想を綴った絵手紙を頂戴しました。当院の外回りの樹木剪定にも触れて「白杖の方のためにも、ありがとうございました」と、やさしいお言葉をいただいたことが嬉しかったです。



院長の講話の様子と防災パン



執筆者近影

私、あの山越えてきました!

検体検査室職員による実話「検査室、冷房壊れる事件」



身近なモノが壊れたとき「ゼンマイじかけのカブト虫(井上陽水)」が頭に流れる。しかし今回は違った。身の危険を感じた。6月19日、世間で熱中症対策義務化が報道される中、検体検査室設置20数年のエアコンが壊れたのだ。室温30℃超、当院の熱中症対策は?と院内チャットでつぶやくと院長ほか多くの方が飲料などを届けてくれ三週間の熱帯作業を乗り越えた。心温まる冷たい飲物に胸熱くしたのは部屋が暑かったせいではない。